

*:

1 ポートエッセイ

—海の向こうの出来事と日常の彩り—

～日本港湾協会定時総会で横須賀市へ～

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:

先月27日、横須賀市において日本港湾協会の定時総会が今年度も盛大に開催された。私も協会の副会長として出席し、関係者の皆様と有意義な時間を共有することができた。開催にあたりご尽力いただいた横須賀市をはじめ、関係者の皆様にご心より感謝申し上げたい。

横須賀といえば、1853年のペリー来航を契機に日本の近代化を牽引した港町であり、近代工業や海軍発展の重要な拠点として歩んできた歴史を持つ。現在も海上自衛隊や在日米海軍基地が所在しており、実際に宿泊したホテルからは、自衛隊の護衛艦や潜水艦、さらには米軍艦艇が停泊する光景を目の当たりにした。港周辺の公園も美しく整備され、多くの人々が散策を楽しむ姿が印象的であった。

定時総会では、国土交通省の森橋大臣官房技術参事官より、港湾行政一般報告として港湾政策の動向について説明があった。報告では、日本成長戦略会議が掲げる17の戦略分野の一つである港湾ロジスティクスをはじめ、サイバーポート、防災・減災、国土強靱化など、多岐にわたる取組状況の報告があった。四方を海に囲まれた海洋国家である日本にとって、いずれも極めて重要な施策であり、改めて関係者の皆様と力を合わせて推進していかねばならないと感じた。

総会や交流会、懇親会では、多くの方々と意見交換をする貴重な機会に恵まれた。その中で話題の一つとなったのが、中東情勢の緊迫化による影響である。私が会長を務める新潟港振興協会の会員からも、すでに影響が現れ始めているとの話を聞いた。ホームセンターでは、ナフサを原料とする一部商品の供給不足が生じているという。政府は十分な備蓄量を確保しているとしているが、今後の動向には注意が必要だろう。

ナフサは、プラスチックや包装材、インク、接着剤など、私たちの生活を支える「見えない基盤」の原料である。その供給不安は、食品、物流、製造業をはじめ、価格やデザインにまで幅広い影響を及ぼす。実際に、一部では食品パッケージの簡素化が実施され、白黒のパッケージとなり話題となっている。

色は、食品の味を変えるわけでも、栄養価を高めるわけでもない。しかし私たちは、色によって安心感を覚える。これまで鮮やかな赤や青で彩られていた商品が、白と黒だけの簡素なデザインへと変わる。そう考えると、どこか味気なさを覚えてしまう。もちろん、色が失われたからといって、直ちに生活が成り立たなくなるわけではない。しかし、スーパーの棚に並ぶ色鮮やかな商品から彩りが消える光景は、どこか寂しいものだ。この時代に、そのような変化が現実となるのだろうか。私たちの日常を支える豊かな彩りが失われることのないよう願うばかりである。

*:

2 トピック

*:

●クルーズ船の乗客へおもてなし

北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所

令和8年5月26日（火）に金沢港クルーズターミナルにて、金沢港おもてなしクラブの皆さんとクルーズ船のおもてなしを行いました。（金沢港おもてなしクラブとは、金沢港の賑わい創出を図るため金沢港周辺の女性有志により結成された団体です。）

当日はクリスタル・シンフォニーの乗船客に対し、加賀棒茶と五郎島金時のお菓子を提供しました。お客さんからは英語だけでなく日本語でも「おいしい」「ありがとう」などの感想をいただきました。

当事務所からは若手職員を中心におもてなしに参加し、地域の方々や海外のお客さんとの交流を通して石川県の特産品や金沢港をPRできました。



●和倉温泉東側、最後の護岸ブロック設置！
～護岸工事見学会 参加者からの応援メッセージ入り～

北陸地方整備局 能登港湾空港復興推進室

北陸地方整備局は、令和6年能登半島地震で甚大な被害を受けた和倉温泉周辺護岸の本格復旧を行っています。5月16日(土)に、和倉温泉東側(海望～旧松之碧)において最後となる護岸ブロックを設置する様子をマスコミ、一般向けに公開しました。

今回の見学会で設置した護岸ブロックは、3月に開催した護岸工事見学会の参加者からの“応援メッセージ入りブロック”です。参加者からは「最後の1個で感慨深い」「想像以上に護岸復旧が進んでいる」といった声が寄せられました。

こうした声に後押しされながら、和倉温泉の復興・生業の再建に向けて、引き続き旅館の再建と歩調を合わせつつ、令和8年度中を目処に可能な限り、早期の完成を目指します。



●「第44回親子のフェスティバル」にブース出展しました！

北陸地方整備局 敦賀港湾事務所

令和8年5月10日(日)、敦賀市のきらめきみなと館とその周辺において、「第44回親子のフェスティバル」が開催されました。

本イベントは、「親と子・仲間・地域・自然とのふれあいを通じて青少年の健全育成を図ること」を目的に、青少年健全育成敦賀市民会議が主催したものです。当事務所は、ブース出展及び港湾業務艇「こはく」による親子体験航海で参加しました。

ブース出展では、「わくわく敦賀みなと」をテーマに、ガントリークレーン操縦のVR映像体験、ドローン操作体験(フライトシミュレーター)、鳴り砂体験、岸壁模型や潜水ヘルメットの展示を行いました。

港湾業務艇「こはく」による親子体験航海では、晴天であったものの午後は風が強くなり、午前・午後の計5回の運航は、安全面を考慮し、午前の3回の運航となりました。普段なかなか見ることのできない海上からの景観を楽しんでいただきました。

これらの体験を通じて、敦賀港で実施している工事や事業内容について、親子等の来場者に分かりやすくPRすることができました。

周辺会場では、海上自衛隊のミサイル艇「はやぶさ」が一般公開されたほか、敦賀市民ジュニア吹奏楽団による演奏会など様々なイベントが行われ、賑わいを見せていました。

敦賀港湾事務所では引き続き、ブースの出展等を通じて多くの人に「みなと」を知ってもらえるよう、地域のイベントに参加してまいります。



VR映像を体験！



ドローンの操作体験



港湾業務艇「こはく」受付大盛況！



船内にて港の役割を説明

●大阪湾生き物一斉調査を実施しました！

近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所

行政機関や市民団体等で構成される大阪湾環境再生連絡会(事務局:神戸港湾空港技術調査事務所)では、大阪湾の沿岸で活動する各団体とともに大阪湾内各地の生き物を一斉に調査する取り組みを通して大阪湾の環境に対する市民の関心を高め、理解を深めることを目的とした「大阪湾生き物一斉調査」を毎年実施しております。

当所では今年も以下のとおり各地で調査を実施し、地元の活動団体や学生、一般参加者とともに多様な生物の生息を確認しました。

開催日時	場所	調査結果
R8.5.13(水)	大阪湾 (大阪港～深日港)	スナメリ生息調査を実施し16頭の生息を確認
R8.5.16(土)	アジュール舞子	マダコ等の軟体動物、カニ類、ウニ類、ハゼ類、ギンポ類、ヤドカリ類、フジツボ類、海藻類等を確認
R8.5.18(月)	甲子園浜	ヒライソガニやニホンスナモグリ、二枚貝類、ヤドカリ類、フジツボ類、海藻類を確認
R8.5.30(土)	せんなん里海公園	魚類、貝類、甲殻類、海藻類など約70種類を確認
R8.5.31(日)	須磨海釣り公園	魚類、貝類、甲殻類、海藻類など約50種類以上を確認

調査の結果は大阪湾各地の水環境を把握する基礎資料になります。

なお、本調査の結果発表会は12月5日(土)に大阪市立自然史博物館にて開催予定です。

「大阪湾生き物一斉調査 情報公開サイト」では、これまでの地点毎の調査結果等を掲載しておりますので、是非ご覧ください。

【URL】 <http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/life/>



調査の様子 (アジュール舞子)



生き物博士による説明 (せんなん里海公園)

